

4 知床の自然環境を守るためのルール・マナー

これまで、さまざまな機関で知床を訪れる人たちに対して知床の自然環境を守るために、ルールやマナーを訴えてきました。本プログラムは知床の自然を未来に引き継ぐために、知床の自然の大切さを知ってもらうためのプログラムです。プログラムの活用であっても、自然は人が立ち入ることでは何かの影響を受けます。自然に与える影響を最小限に抑えるために、ルールやマナーを守り、知床の自然を未来に引き継ぎましょう。

(1) ゴミは必ず全て持ち帰ること

空き缶や残飯等のゴミを捨てると、ヒグマが食べ、これらの味を覚えてしまいます。味を覚えたヒグマはゴミは餌になることを学習し、これらを求め、人間の生活圏まで進入するようになり、さらには人家を襲うなど危険な行動をとるようになりかねません。持ち込んだ物は全て持ち帰りましょう。

(2) 野生動物に餌を与えないこと

野生動物に餌を与えると、人間は餌をくれるものと学習します。簡単に餌が手に入る方法を知ってしまえば、捕食しなくなり、野生動物本来の行動が損なわれてしまいます。道路に出てきて事故に遭う等、場合によってはその動物の死に繋がることもあります。また、ヒグマであれば上記のゴミ捨てと同様の危険があります。キタキツネであれば、接触した際にエキノコックスに感染する恐れもあります。

(3) 写真撮影等で野生動物に近づかない・人に慣れさせないこと

写真撮影や観察等で野生動物に近づく行為は、その動物にストレスを与えてしまう可能性があります。また、野生動物が威嚇してくることもあり大変危険です。もし、自分の前にライオン等の猛獣が近づいてきたら、ストレスを感じるはずですが、それと同じことではないでしょうか。

(4) 遊歩道等定められた道から外れないこと

遊歩道等の定められた道から外れて歩くと、植生地が踏みつけられ、裸地化する等、植生に影響を与えてしまいます。一度、裸地化すると簡単には元通りになりません。カメラやフィールドスコープの三脚を立てる場合も脚で地面に穴があかないよう、道からはみ出さないようにしましょう。ストック（ウォーキングスタッフ）は歩行を快適にサポートしてくれますが、地面に刺さったり掘り返してしまうことがあります。先端にはプロテクタ（キャップ）をはめて使用しましょう。

(5) 土石や植物等の採取は行わないこと

土石や植物等を採取することは、貴重な植物等を減少させてしまう恐れがあります。知床の自然を未来に引き継ぐためにもやめましょう。

(6) ペットを連れて歩かないこと

ヒグマの生息地でペットを連れて歩くと、ペットの獣臭によりヒグマを引き寄せてしまいます。また、人の存在に気づき藪の中でやり過ごそうとしているヒグマに対し、ペットが吠え掛かると、パニックを起こし、人に向かってくる恐れがあります。

また、ペットが自然に影響を与える外来種を持ち込む可能性もあります。

(7) 漁業・農業施設や農地などに立ち入る際は断ってから

知床の豊かな自然は農業や漁業の基本となっています。プログラムの中で漁港や農業関連の施設、農地に立ち入る際は、漁協や農協、漁師や農家の方と打ち合わせをして作業の支障にならないようにしましょう。農作物に対しては他の地域から病気や線虫を持ち込まないよう、畑には立ち入らないようにします。

(8) 知床半島先端部地区への立ち入りを自粛すること

環境省では、知床半島先端部地区への立ち入りについて、「自然環境への配慮」、「次世代への配慮」、「自己責任による立ち入り」、「事業者の責務」を基本原則とし、利用者の増加のため、貴重な自然環境に影響を与えないよう立ち入り自粛要請を行っています。

■参考

◎ガイドのローカルルール

知床でガイドを行っている事業所などで構成されている知床ガイド協議会などでは、羅臼湖や知床五湖、流水ウォーク、カヤックなどについてローカルルールを定めていたり、検討しているものがあります。ガイド事業者のルールですが、参考になる部分は取り入れてみてはいかがでしょうか。

知床ガイド協議会ホームページ <http://www.shiretoko-guide.net/>